

土木分野における最近の話題

総合建設技術室

平野裕一

土木分野における最近の話題として、日本の土木構造物の現状を挙げる。

現在の日本を形成している土木構造物の多くは、高度経済成長期につくられた。

それから数十年が経過し、土木構造物の老朽化が急速に進んでいる。

という現状の一方で、

人口減少により、それら構造物を支える人の減少。

高齢化の進行による社会保障費の増大、膨張する国債公債による財政の硬直化。

といった問題がある。そのため、

従来と同水準で全ての構造物を更新しつづけることは困難。

であるといえる。そこで、

効率的な維持管理手法の開発

(点検・補修方法としても、補修費用を抑えるための効果的な時期の選定としても)

構造物の延命化

(更新ではなく部分的な補修により機能維持)

維持していく構造物の選別

(どの構造物を維持していくか、どのように利用を制限していくか。)

を考えていかなくてはならない。

今回は、

1. 老朽化していく構造物を抱える日本の現状と今後
2. 老朽化した構造物
3. 古くても健全な構造物
4. 地方自治体の社会資本維持管理の現状
5. 都市のコンパクト化

の観点から、日本の土木構造物の現状に関連した話題を紹介する。

なお、このような現状を背景とする問題、あるいはこのような現状の問題自身が、筆者の担当する実験・研究のテーマとなっている。